

ミュージアムニュース



広島県立歴史博物館
Hiroshima Prefectural Museum of History
草戸千軒ミュージアム

第148号



くさどっきー せんちゃん

Hiroshima Prefectural Museum of History

令和8年度 夏の企画展

見て楽しい! 日本の城づくり

会期 令和8年 7月17日(金)から 9月6日(日)まで

今年の夏は福山で
いざお城の世界へ!

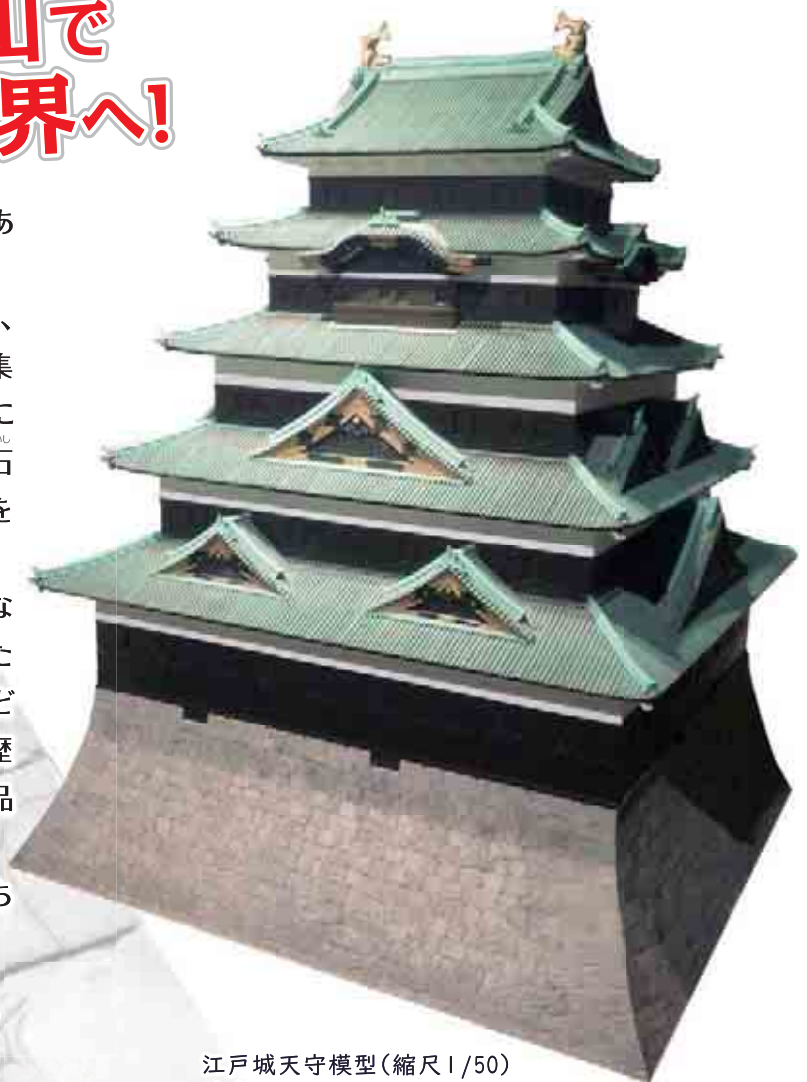
みなさんは、お城を訪れたことがありますか?

城は日本が誇る文化遺産の一つで、観光スポットの定番としても人気を集めています。なかでも、近世の城(※)に見られる天守や御殿といった建築、石垣、堀の大迫力は、訪れる多くの人々を魅了しています。

今回、当館では、城をめぐる多彩なテーマの中から「城づくり」に注目した展覧会を企画しました。近世の城がどのように築かれたのか、ビジュアルな歴史的資料や模型・イラストなどの作品によって、分かりやすく紹介します。

お出かけの際は、お気軽にお立ち寄りいただければ幸いです。

※安土桃山時代から江戸時代に築かれた城



江戸城天守模型(縮尺1/50)
兵庫県立歴史博物館蔵

次ページ 展示内容の一部を先行紹介! ▶▶



城をデザインする

城を築くには、どの場所がふさわしいか？
どのように区切って、どんな施設を造るか？
建物はどんなものにするか？
全てを考え抜いて、城はつくられました。



- 1.福山城復元イラスト(香川元太郎作品)／ふくやま美術館蔵・画像提供
- 2.播磨国姫路城図(守屋壽コレクション)／当館蔵
- 3.丸亀城木図(部分)／丸亀市立資料館蔵・画像提供

3

城を築く 建物を造る

城づくりは一大プロジェクト。様々な分野の職人たちの技を見ることができます。

石垣の積み方、瓦の色彩や造形、繊細な木彫り…

大きな城も、近くで見れば、細かな作りこみに驚きます。



4



5



6

- 4.懸魚及び鰭(伝松江城三之丸御殿所用)
／島根県立古代出雲歴史博物館蔵
- 5.金箔鯰瓦(広島城跡上八丁堀地点出土)
／広島市蔵・広島城画像提供
- 6.石垣(金沢城石川門)／当館撮影

城を飾る

城は雄大だけではなく。天守や御殿といった建物の各所が、絵画や金工、彫刻などで美しく飾られ、城主たちの暮らしに彩りを与えました。

このような立派な飾りは、城を訪れる人々に対して、城主の権力の大きさを見せつける役割をもっていました。



7



8



7の右側(引手金具拡大)



9

7.福山城旧伏見御殿杉戸絵／ふくやま美術館蔵・画像提供

8.紙本金地著色護花鈴・並笛図(屏風残闕)

／三原市教育委員会蔵・画像提供

9.釘隠(伝松江城三之丸建物所用)／松江歴史館蔵・画像提供

※3は丸亀市、7は福山市、8は三原市の指定文化財。

／ほくたちも待ってるよ！／



会期中の土・日・祝日には、城について学べるイベントも開催予定。
詳細が決まり次第、当館HP等でお知らせします。御期待ください！

【記念講演会】

8月1日(土) 中村 泰朗さん「近世日本の城づくりと城郭建築の特徴」
8月29日(土) 小粥 祐子さん「御殿はなぜ美しく飾られたのか」

【ワークショップ】

8月11日(火・祝)「福山城(伏見櫓)のペーパークラフトを作ろう」
8月23日(日) 「オリジナルミニ屏風を作ろう」

【展示解説会】

7月26日(日)、 8月15日(土)、 9月5日(土)

博物館アラカルト 34

草戸千軒町遺跡出土の 渡来銭が物語る日本の貨幣史

日本最古の鑄造貨幣「富本銭」を含む奈良県飛鳥池遺跡出土品を国宝に指定するように、国の文化審議会が3月26日に、文部科学大臣に答申しました。

今回の博物館アラカルトでは、日本における貨幣の歴史を広島県福山市にある中世の港町・草戸千軒町遺跡から出土した備蓄銭を通して、紐解いていきたいと思います。

1 日本における貨幣の黎明期：富本銭

奈良県飛鳥池遺跡は、7世紀後半、天武天皇の時代の官営工房群で構成され、「富本銭」(写真1)の鑄型や工具などその生産過程を示す資料が見つかっています。

西暦683年に鑄造された「富本銭」は日本における最も古い貨幣と言われていますが、国内に広く流通した最初の貨幣として知られているのは、708年鑄造の「和同開珎」です。その後、朝廷は「乾元大宝(958年鑄造)」まで12種類の貨幣(皇朝十二銭)を発行します。しかし、この時代の貨幣はまだ一部の儀礼などに使われる程度にとどまり、広く一般的に品物の売買の際に使うような「決済手段」ではありませんでした。



【写真1】「富本銭」

出典：奈良文化財研究所「富本銭（奈良県飛鳥池遺跡出土品）」(CC BY 4.0)をトリミング

2 渡来銭が変えた日本の経済

私たちの祖先が実際に「お金」を日常的に使いこなし、富を蓄えるようになった背景には、中国から輸入された「渡来銭」の存在が欠かせません。

平安時代末期から鎌倉時代にかけて、日本は自国で貨幣を鑄造(発行)せず、主に中国(宋や明)から輸入された銅銭、いわゆる「渡来銭」を流通させるようになります。

瀬戸内海に位置した中世の港町・市場町である草戸千軒町遺跡からは、数万枚規模の「備蓄銭」が発見されています。発掘調査からは、現在の岡山県倉敷市で生産された亀山焼の壺や甕の中にぎっしりと詰められた銅銭が見つかっています。「中世のタイムカプセル」ともいわれる草戸千軒町遺跡は、当時、瀬戸内の港町で、現代に近い経済活動がすでに花開いていたことを物語っています。

3 草戸千軒町遺跡にみる「銭のリアル」

草戸千軒町遺跡から出土した備蓄銭を調べることで、当時の人々が銭をどのように使用し、保管(備蓄)していたのかが見えてきます。

銅銭は、多くの銭を受け渡しするときにバラバラの状態ではなく、中央の穴に紐(藁紐

など)を通して、100枚を単位として束ねられていました。当時は銭1枚を1文と数え、100文の束を1緡、10緡の束を1貫文と呼んでいました。ところが、次に紹介する草戸千軒町遺跡の備蓄銭の発見により、本来は百文で取り引きされた一緡の束が、実は100枚ではなく97枚しかなかったことが発掘調査によって裏付けられました。これは「省陌」という暗黙のルール(習慣)で、100文として扱う枚数は違いますが、中国やベトナムでも同様の運用がされていました。

写真2は、亀山焼の甕を地中に埋め、その中に12,951枚の銭を納めたもので、金融業者の金庫のような役割を果たしていたものと考えられます。

写真3は、蕈などに包んだ約5,000枚の銭の塊が錆びついた状態で出土したものです。塊の中央を境にして、24緡と26緡の合計50緡が数えられ、これが5貫文の束であることが分かります。このように、当時の銭の保管状況が分かる出土銭は全国的にも珍しい発見でした。また、写真3の銭の塊は舟木家旧蔵の国宝『洛中洛外図屏風』(東京国立博物館蔵)に描かれている銭緡の束の状態と同じであることも注目されます(写真4)(○で囲った部分:店の棚に銭の束がいくつも置かれている。)



【写真2】亀山焼の甕に納められた銭



【写真3】錆びついた銭の塊



【写真4】「洛中洛外図屏風(舟木本)」

出典：東京国立博物館研究情報アーカイブスの一部加工

4 模鑄銭と撰銭

渡来銭の流通量が拡大し、経済活動が活発になる一方で、次第に「銭の流通量」の不足と「お金の質」をめぐる深刻な混乱が生じるようになりました。

日本に輸入された渡来銭は、それ以前にすでに中国国内で使用された(使い古された)銭であり、長期間の使用による劣化(欠けなど)がありました。また、全国各地で定期市が盛んに開かれるようになり経済活動が活発になると、貨幣(銅銭)そのものの流通量が不足する問題が起きました。そうした中で登場したのが「模鑄銭」です。模鑄銭には、日本に輸入される前に中国国内で正規の銭を型にして模鑄(コピー)された銭や日本国内で模鑄された銭など様々でした。これら模鑄銭は正規の銭に比べて、「薄い」「直径が小さい」「銭表面の文字が潰れている」など、品質が低い銭でした。

15世紀後半以降、市場に出回る模鑄銭の量が多くなると、人々は当然、質の良い「精銭」を欲しがり、「悪銭」での支払いを拒否する「撰銭」行為が行われるようになりました。「撰銭」と聞くと、品質が劣る、あるいは粗悪な銭を排除したと想像しがちですが、戦国時代の渡来銭の中でも品質が高い「永楽通宝」が国内で長く使われてきた渡来銭（明より前の王朝の銭）に比べ「見慣れないお金」であったことから、かえって怪しまれ、受取りを拒否されたり、低い価値で扱われる現象が見られました。

撰銭が横行すると市場では支払いを巡る争いが絶えず、経済が停滞してしまいます。これを鎮めるために室町幕府や戦国大名が出したのが「撰銭令」です。

この頃の日本社会では、地域ごとに、悪銭であっても例えば悪銭10枚で精銭1枚分といった交換比率が定められ、年貢収納や取引の通貨として使用されていました。中国地方を中心とする地域を治めた毛利氏の領国内では、「南京（銭）」と呼ばれる低品位の銭貨が16世紀中ごろから17世紀初めまで流通していたことが確認されています。

港町として栄えた草戸千軒でも、「この銭は使えるか、使えないか」という生々しいやり取りが、商人や民衆の間で行われていたのかもしれません。

5 金・銀の流通と石高制への移行

これまで見てきたように、貨幣そのものの信頼性が揺らいだことで、高額決済の手段として金・銀が注目されることになります。主に東日本では「金」が、西日本では「銀」が主流となりました。当初、金・銀は塊で、贈答や軍資金の備えとして扱われていましたが、織田信長や豊臣秀吉は一定の形（判金など）に成形し、金銀を通貨として活用し始めます。

中世までは、土地の価値を年貢（税金）の金額で表す貫高制が一般的でしたが、前述してきたように銭の価値が不安定だったため、貨幣価値の変動に左右されない「米」を基準とする石高制へと移行していきます。江戸時代になると、武士は「米（石高）」で給与をもらい、それを「金銀」に換えて都市での生活品を購入する枠組みが形作られていきます。

令和7年度に、草戸千軒町遺跡から出土した亀山焼・甕の保存修理を行いました

本資料は、当時の備蓄銭（大量の銅銭を貯蔵したものを）を納めていた容器です。今回の修理では、経年による劣化箇所の補強と従来接合されていなかった口縁部の破片を新たに接合し、当時の形状により近い状態でご覧いただけるようになりました。

甕の内部には、緑青と呼ばれる緑色の付着が確認できます。これは銅銭と甕内部の水分と酸素が反応したことで生成されたもので、何百年の月日を経て埋蔵された備蓄銭が現代に伝えられた証とも言えます。

当館2階草戸千軒展示室にて展示中です。



頼山陽文化教室の御案内

頼山陽史跡資料館は、平成27年5月の県への移管以後、公益財団法人頼山陽記念文化財団と連携しながら文化講座や頼山陽文化講演会を開催してきました。さらに、令和7年度からは体験教室も財団との共催で開催しています。

令和8年度からは、これまでの体験教室を「頼山陽文化教室」として装いも新たに展開していくことになりました。これまでの実績を踏まえ、頼山陽とその周辺について様々な角度から体験しながら学んでいただく場を設けていきます。令和8年度の頼山陽文化教室の概要を御紹介します。

- | | | |
|-----|-----------|--|
| 第1回 | 「掛軸に親しむ」 | 6月28日(日) ①10時30分～12時 ②13時30分～15時
定員：各5名 参加費無料 |
| 第2回 | 「南画入門」 | 7月12日(日) ①10時30分～12時 ②13時30分～15時
定員：各5名 参加費(材料費等)500円 |
| 第3回 | 「紙すきに挑戦」 | 9月27日(日) ①10時30分～12時 ②13時30分～15時
定員：各6名 参加費(材料費等)1,000円 |
| 第4回 | 「筆づくり」体験 | 10月4日(日) ①10時30分～12時 ②13時30分～15時
定員：各5名 参加費(材料費等)1,500円 |
| 第5回 | 「篆刻に挑戦」 | 11月22日(日) 13時30分～15時
定員：10名 参加費(材料費等)2,000円 |
| 第6回 | 「書道入門」 | 12月6日(日) ①10時30分～12時 ②13時30分～15時
定員：各5名 参加費(材料費等)500円 |
| 第7回 | 「裏打ちに挑戦！」 | 3月22日(月・休) 13時～15時
定員：8名 参加費(材料費等)500円 |
| 第8回 | 「色紙をつくろう」 | 3月28日(日) 10時30分～15時
定員：8名 参加費(材料費等)500円 |

■ 内容の詳細につきましては、頼山陽史跡資料館(082-298-5051)までお問い合わせください。



「裏打ちに挑戦！」のひとつコマ

第2回以降は参加費(材料費等)が必要です。会場はいずれも頼山陽史跡資料館ロビーです(要申込・先着順)。「ここでしかできない体験を！」をモットーに、少人数でじっくり体験していただけます。第2回から最終回まで連続して参加していただくと、自作の書画が色紙になります。その達成感は何物にも替えがたいものがあります。お気軽にお問い合わせください。

頼山陽史跡資料館
(広島市中区袋町5-15)
TEL:082-298-5051



頼山陽史跡資料館
ホームページ

博物館 掲 示 板

夏休みのこどもを対象としたイベントです。みんなで、応募しよう！



1 夏休みだよ！ こども博物館教室

要申込(対象:小学生・中学生)
※小学生は保護者(18歳以上)の同伴が必要です

教室名	実施日時	内 容	定 員	材 料 費
い草を織ろう	7月25日(土) 10:00~15:00	ミニ織機で オリジナルランチョンマットを作ろう！	14名	無料
藍染をしよう	8月1日(土) ①10:00~11:30 ②13:00~14:30	備後地方を代表する伝統産業「藍染」で、 オリジナルのハンカチを作ろう！	20名 (各回10名)	330円
ミニ畳を作ろう	8月22日(土) 10:00~12:00	日本の伝統的な住居に欠かせない「畳」の作り 方をかわいいミニサイズで体験してみよう！	20名	550円

2 草戸千軒お化け屋敷

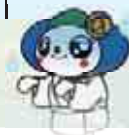
要申込(対象:小学生)
※保護者(18歳以上)の同伴が必要です

実施日時	内 容	定 員	参 加 費
8月1日(土)、8日(土)、15日(土)、22日(土) 各日の ①18:00~19:00 と②19:00~20:00	室町時代の港町である「草戸千軒」を実物大で再 現した町並みを会場としたお化け屋敷で、650年くら い前の夜を体験してみよう！	各日15組 (一組4名以内)	無料

いずれも、「広島県電子申請システム」でお申込みいただきます。

申込開始時期は6月中旬を予定しています。

イベントの詳細や申込開始日、参加決定のお知らせなど、詳しくは、**当館ホームページ**をご覧ください。



広島県立歴史博物館友の会からのお知らせ！

あなたも、友の会の会員になりませんか？

友の会では、令和8年度の会員を募集中です。
友の会の会員には、博物館が主催する展示会を無料で観覧できる
などの特典があります。

歴史や文化に興味をお持ちの方は、ぜひ友の会にご入会ください！！

友の会の活動については、**QRコード**からご確認ください。

年会費は
次のとおりです。

一般会員 2,000円
学生会員 1,000円
家族会員 3,000円 (同居家族5名まで登録できます。)
賛助会員 7,000円 (会員証を4枚発行します。)



QR
コード



◇ 令和8年度の博物館の組織と職員です(4月1日現在)。よろしくお願いします。

館 長		◎竹森 潤一		歴史博物館アドバイザー		白井 比佐雄		(分 館)	
総 務 課		学 芸 課		草戸千軒町遺跡研究所		頼山陽史跡資料館			
課 長	谷村 健二	課 長	◎岡野 将士	(兼)所長	◎岡野 将士	館 長	長倉 昌久	◎倉本 享宏	◎享宏
主 任	◎小笠原 拓也	主任学芸員	渡部 史之	主任学芸員	村田 晋	主 任	◎大塩 保由	◎大塩 保由	◎大塩 保由
主 任	橘高 真理	学芸員(エルダー)	木村 信幸	主任学芸員	佐伯 昌俊	主 任	学芸員	◎中塩 将隆	◎中塩 将隆
文化施設		学芸員(エルダー)	西村 直城	学 芸 員	富田 啓貴	主 任	学芸員	◎花本 哲志	◎花本 哲志
事務従事員	瀬戸 美幸	学芸員(エルダー)	西村 直城	学芸員(エルダー)	大上 裕士	主 任	主 任	◎伊藤 大輔	◎伊藤 大輔
ワークサポ		文化施設	細谷 紗桜	学芸員(エルダー)	尾崎 光伸	主 任	主 任	◎川邊 あさひ	◎川邊 あさひ
職 員	横原 葵	事務従事員		文化施設	吾田 朱里	主 任	主 任	◎篠永 美千代	◎篠永 美千代
				事務従事員		主 任	主 任	◎山本 知樹	◎山本 知樹
						主 任	主 任	◎細井 亮佑	◎細井 亮佑
						主 任	主 任	◎深水 貴仁	◎深水 貴仁
						主 任	主 任	◎井上 麻由子	◎井上 麻由子
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		
						主 任	主 任		

◎は新任。 この他、広島県立歴史民俗資料館学芸員が、当館学芸員を兼務しています。

広島県立歴史博物館 ミュージアムニュース 第148号

編集・発行

令和8年6月17日

〒720-0067 広島県 福山市 西町二丁目4-1
TEL 084-931-2513 FAX 084-931-2514
e-mailアドレス rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp
ホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishih/>
X(エックス) https://twitter.com/hiroshima_prhk
インスタグラム https://www.instagram.com/hiroshima_history_museum/



広島県立歴史博物館
Hiroshima Prefectural Museum of History
草戸千軒ミュージアム



▲ ホームページ



▲ X(エックス)



▲ インスタグラム